

盆踊り漫遊

竹中尚文

第3回

1. 日系移民の歴史

はじめに盆踊りが北米の浄土真宗のお寺で盛んに行われていることを紹介し、前回はその始まりについてお話をしました。日本人がアメリカに渡ったので、自然発生的に盆踊りが始まったということではなく、浄土真宗のお寺が深く関わっていたのです。その理解を深めるために、これから日系移民の歴史的背景についてお話をしてみます。

2. 移民の始まり

日本は明治時代に入り、開国をします。1868年(明治元年)、アメリカ人の貿易商が153人の日本人労働者をハワイに運び、非常に過酷な労働に従事させます。明治政府は、移民たちが劣悪な労働に従事しているので、それ以後の移民を認めませんでした。しかし、明治政府は1885年(明治18年)に海外移民制限を解除しました。

移民の制限解除の理由を考えると、まず政府の動機があるでしょう。明治政府による経済政策の失政があり、移民が海外から日本に送金をすることで、外貨獲得をしようとしたのででしょう。移民の当初はかなりの人数の「出稼ぎ」が含まれていました。多くの方は単身で海外に渡航し、故郷へ仕送りをしました。その仕送りを見聞きした故郷の方は次の渡航者になっていきました。

次に当事者の動機です。当事者の置かれている経済的状況が劣悪であり、海外の状況の方がよければ、移民をします。近年、中国と日本の賃金格差が大きいときは、日本で中国人労働者を多く見ました。今、中国と日本の賃金格差が少なくなってくると、中国人旅行者をよく見るようになりました。

1885年(明治18年)に、移民が解禁されて、日本から多くの方が移民をしました。

この移民解禁の前にあった最も大きな出来事は、1877(明治 10 年)の西南戦争です。この西南戦争は日本近代の最も大きな国内戦争でした。戦争は、破壊行為ですから経済の大きなマイナスです。戦闘に参加しなかった人々の生活に少なからず影響をもたらしたのでしょう。戦争の勝敗には関係なく、普通の人々の生活を混乱させたのです。間接的な戦争被害者ともいえる普通の人々が、新たな生活を求めて海外に出て行ったのです。この点について、本文末のグラフをご覧くださいと、1899 年(明治 32 年)と 1905 年(明治 38 年)に海外移住者数が急激に増えています。これも、日本の国内事情をいえば日清戦争と日露戦争がありました。戦争は誰が勝とうが、負けようが関係なく、庶民の生活に影響したのです。

1885 年(明治 18 年)以後、日本を出国する人の渡航先は、北米がほとんどで、次いで南米、東南アジアの順でした。東南アジアへの日系移民ということに驚かれた方には、鶴見良行著『なまこの眼』(筑摩書房)をご一読されることをお勧めします。

渡航先は北米については、ハワイ王国(1898 年にアメリカ合衆国に併合)とアメリカ合衆国本土とカナダです。1885 年か

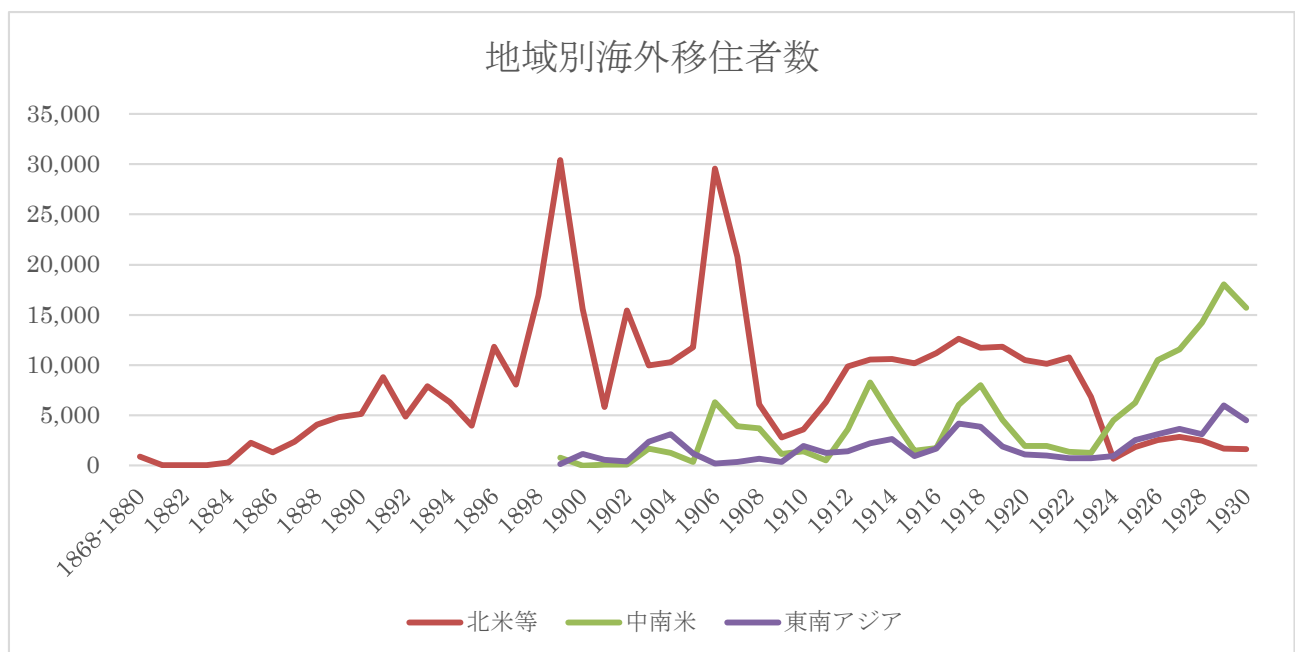
ら 1924 年までの間に、ハワイに約 20 万人、合衆国本土に約 18 万人が移住しました。同時期、南米には約 7 万人、東南アジアには 3.7 万人です。(本文末のグラフ参照)カナダにはどれくらいの人たちが移住したか分かりません。例えば、1900 年の記録で、日本側でカナダに向けて約 2700 人が出国し、カナダ側で日本からの入国は 6 人となっています。アメリカに入国してからカナダに移動する人もいたでしょうし、その逆もあったでしょう。いずれにしてもカナダに移住した人はそれほど多くなかったようです。(飯野正子著『日系カナダ人の歴史』東京大学出版会)

1885 年(明治 18 年)以後、ハワイ及びアメリカ本土に渡った人に西日本出身者が多かったのは、西南戦争の影響があったかもしれません。あるいは東日本の人達は北海道開拓に向かったのかもしれません。この西日本というのは、浄土真宗本願寺派(西本願寺)の門^{もん}信徒^{しんとう}の多いところでは、この門信徒の要請をうけて、本願寺は 1899 年(明治 32 年)に二人の僧侶を、サンフランシスコに派遣しました。この事をもって、浄土真宗本願寺派はアメリカ開^{かい}教^{きょう}に取り組みます。(本願寺史料研究所編『本願寺史』第 3 巻)

この時代の東西本願寺の海外布教の動向について、次のような指摘があります。幕末の動きの中で、東本願寺は佐幕派の立場をとりました。江戸時代を通じて、東本願寺は徳川幕府に近く、西本願寺は幕府から遠い存在でした。明治維新を迎えて、東本願寺は海外布教に目を向けました。中国大陸での布教を計画して、清から布教権を受けようとするのですが、なかなかその許可は出ません。東本願寺は、明治政府にその後押しを頼みます。明治政府は西本願寺が中国大陸での布教の動きがないのに、東本願寺のみに援助をすることはできないと答えます。明治政府の中の長州藩出身者が本願寺派(西本願寺)の門信徒でした。東本願寺のこうした動きは、西本願寺に伝えられていました。西本願寺は中国での布教に可

能性を見いだせずに、北米への進出を決定します。北米に移住した日本人を対象とした布教活動であれば、布教権を取得する必要がありません。(川邊雄大著「大谷光瑞と中国布教」『アジア遊学』156号)

いずれにしても、浄土真宗本願寺派(西本願寺)は、日本からアメリカに移り住んだ日本人のために1899年より開教を始めました。開教といいながらも、アメリカの人たちを浄土真宗に勧誘するものではなく、日系移民のためのことでした。同時に、本願寺による開教は米国仏教団(BCA)の設立でもありました。この事は戦後に他の日本仏教宗派のアメリカ進出まで、BCAが日本仏教として宗教的に日系移民の心を支えることになりました。



外務省領事移住部『わが国民の海外発展 移住百年の歩み(資料編)』の資料よりグラフを作成した。